

万華鏡

甲府商業高校 図書室
令和8年9月
NO. 4

厳しい残暑が続きそうですが、その中でも少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。
秋は様々な形で私達の生活に実りを与えてくれます。
「芸術の秋」、「スポーツの秋」、そして「読書の秋」等と・・・
図書室には、そくそくと新着図書が入っています。
秋の夜長にぜひ読書を楽しんでほしいと思います。



新着本紹介

『信頼できるニュースって何？』

奥村信幸／著 岩波書店

書籍紹介：政治・経済、スポーツやエンタメ、天気等、ニュースは、私たちの暮らしに欠かさない存在である。ニュースはどうあるべきか、記事はどう作られ読まれるのかを、架空の高校で、学校新聞の記者として報道に携わる生徒たちの活動から考察していく。
フェイクを見分ける力等、読み終える頃にはニュースリテラシーがUPする1冊。

『お金儲けしない経済学』

平賀緑／著 岩波書店

書籍紹介：経済学は何を忘れたまま「経済成長」を目指してきたのか。料理や家事、自然環境など「お金儲けしない」領域を見直してみたら、じつは私たちの生活も経済も支えている、人も自然も壊さない「経世済民」の考えや実践が存在していた。企業任せでも、政府任せでもない、私たちの〈共（コモン）〉の仕組みを考えよう。

『風林火山のむすめ』

木下昌輝／著 双葉社

書籍紹介：武田信玄が犯した5つの悪行がある。武田信玄の娘の松姫は、年齢12にして織田信長の嫡男・信忠と婚約していた。しかし、信玄は織田を裏切った後、病没。武田家が混乱する最中、父を恨む松姫は兄・勝頼からその事実を明かされる。父は悪か、それとも、正義か。そして、悪行の秘密と真実を調べるため、松姫は旅に出る。かつての父を知る人々によって彼女が辿りついたのは、誰も知らない父の真の姿だった。

『ハヤブサ消防団 森へつづく道』

池井戸潤／著 集英社

書籍紹介：東京から移住したミステリ作家・三馬太郎は、ハヤブサ地区で消防団活動に参加しながら、周囲で起きる不自然な出来事に気づいていく。そんな中、森へと続く道をめぐって、地域に潜む不穏な気配がよりはっきりし、住民たちの間にも警戒心が広がる。太郎は誰が何を隠しているのか探り始めるが、静かな山村の空気の中で、見えない圧力と違和感が少しずつ彼を包み込んでいく。やがて、太郎は、集落に忍び寄る危機と向き合い、仲間たちと町を守る覚悟を固めていく。

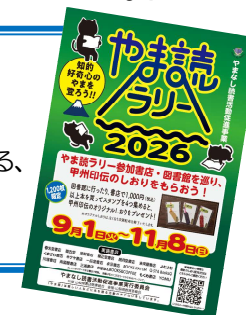
- ★『夏帆』 村上春樹／著 新潮社
- ★『真昼にも星が光ると知ったのは』 梨屋アリエ／著 ポプラ社
- ★『誰何』 伏見美紀／著 光文社
- ★『ミステリーが最強の文芸である』 杉井光／著 日本文芸社
- ★『永遠の記憶』 東野圭吾／著 文藝春秋
- ★『さよならジャバウォック』 伊坂幸太郎／著 双葉社
- ★『書店を守れ！』 今村翔吾／著 祥伝社
- ★『ここは子どものいない国』 武田綾乃／著 講談社
- ★『眠れなくなるほど面白い図解富士山の話』 富士学会／著 日本文芸社
- ★『夢も金もない高校生が知ると得する進路ガイド』 石渡嶺司／著 星海社
- ★『マンガでわかる！小論文 書き方のルールとコツ編』 大堀精一／著 学研
- ★『月がきれいな夜に、誰かに思い出してほしいかった』 川代紗生／著 サンマーク出版
- ★『学校に行かなかった僕が、あのころの自分に今なら言えること』 石井しこう／著 大和書房

…… など



やま読ラリースタンプカード配布！

図書室で本を借りたり、県内書店で1,000円以上本を買ってスタンプを4つ集めると、甲州印伝のオリジナルしおりがもらえる、**やま読ラリー**を実施中！
図書室の本を借りた人にスタンプカードを差し上げています!!



司書教諭の独り言 ③

本を読むと、どのような良いことがあるだろうか。前号に続き、ある説を紹介しよう。
出口治明（はるあき）という人がいる。日本生命で働くビジネスマンだった。後に、ライフネット生命という会社を立ち上げ、最近まで立命館アジア太平洋大学の学長をしていた。出口さんは、子どものころから、遊ぶことと本を読むことを好んだ。社会人になってからは、どんなに忙しくても寝る前に1時間、本を読んだ。そんな出口さんは、自分という人間は「本」と「人」と「旅」からできている、と言う（その割合は、50：25：25）。多くの本を読み、多くの人と話し、国内外の多くの地を訪ねた。その結果、得られたことは、人生を楽しむ力、すなわち教養だという。
同じ場所を訪れたとしても、その地の歴史や文化を知っていれば、より多くのことを楽しめる。
読書は、人生を楽しむ力を育む。

出口治明『人生を面白くする本物の教養』（幻冬舎新書）